

1年2組

 お気に入りの場所にしたいな みんなの基地  
 ～ 基地から始まる遊び ～


## 「まだまだだな」

1月終わってから分散登校が続きました。その分散登校開始以来継続しているオンライン授業もすっかり、日常の一部となりつつあります。

2組では、オンライン授業の開始にあたり、一人一人の名前を呼んでみんなで「おはよう」と声をかけあうことから授業が始まります。離れていてもつながりを実感し合える貴重な時間です。私はこの時間が大好きです。ガラとした教室のどこか寂しい雰囲気も一気に明るくなる感じです。そんな素敵な時間の中で、おうちで学習したことを披露してくれる子もいます。ダンボールでつくった眼鏡、折り紙で作った手裏剣、授業で学習した硬貨の塗り絵等たくさんのが登場します。1年生ながらおうちでの時間も自分たちで工夫して学びを進めていることに驚かされます。また、そこにはおうちの方のサポートがあることも感じ、感謝の気持ちでいっぱいになります。

そんな子どもたちが進める学習の中に「アルミ玉」があります。数年前、某YouTubeで話題となったアルミホイルを丸めてきれいな玉をつくるというものです。基本的な工程は、アルミホイルを丸める、叩く、削る、磨くという流れです。上手くいくと表面が鏡のようになります。Tさんのアルミ玉は正にそのようなアルミ玉です。Tさんは、ゆっくりゆっくり工程を進めます。例えば、金づちで叩くときも、普通は床に置いて叩くところを、手のひらに乗せ少しずつ叩きます。紙やすりで削るのも同様です。手のひらに軽く乗せ、なでるように紙やすりを動かします。その姿は、「ゆっくり」というより「じっくり」と言った方がいいかもしれません。また、Tさんは、常にアルミ玉を持ち歩いています。登校中も磨くためのガーゼに包んでポケットに忍ばせています。ずっと一緒なのです。暇さえあれば、アルミ玉を見つめ、手を加える。少しの変化を感じながら、粘り強く作業を繰り返す。繊細な仕事です。ここまでつるつるのアルミ玉になるには、途方もない時間がかかっていると思います。それでもTさんは、「まだまだだな」と今日も玉を磨いています。



Tさんの姿を見ていると、自分のしたいことに没頭し、追究を深めることの良さを改めて感じます。学びとは、どういうことなのか。豊かに生きるとはなんなのか。そんなことを考えさせられています。分散登校となり、できることに制限が加えられ、いつもの通りと叫ぶ部分がたくさんあるかと思っています。その中でも、今だからできることを見つけ、追究を楽しんでほしいと思います。



## 「基地のこと、わすれないようにしよう」



今年の冬は、よく雪が積もりました。登校した子どもたちは、そりを片手に足早に雪山へ出かけていきます。そんな中、一人基地へと向かうのはSさんです。何をするのか遠目に眺めていると、基地に積もった雪をほうきで掃いていました。「みんなが遊んでけがをしないように」そう話す彼女の言葉や姿から、友だちや基地への思いの強さを感じます。振り返れば、この基地を舞台にたくさんの思い出が生まれました。ハンモックに揺られ、ベンチで語り、2階から景色を楽しむ。ボルダリングで競争し、昆虫採取のお披露目を行う。基地は、1年2組の活動のいつも中心にありました。Sさんも基地で過ごす日々の中で、たくさんの思い出が生まれたのでしょうか。その大切な思い出が、そして彼女の優しさが、「みんながけがをしないように」という行動に現れたのではないのでしょうか。Sさんの雪かきは、その後も続いていきます。

3月8日、この日が基地とのお別れの日となりました。基地とのお別れは、オンライン授業も含めた3度の話し合いの結果でした。保存派と分解派との間で、揺れた話し合い。「今までの思い出がたくさん詰まっています壊せない」とする保存派。「きれいに分解して、もっと大きな基地を作りたい」とする分解派。どちらの意見も頷けます。なかなか決められませんでした。その中で焦点となったのは、『新しい1年生のためになるのはどちらか』ということでした。「新しい1年2組の人は、基地があったら絶対喜ぶよ」、「そうだけど、やりたくない人もきつといるよ」、「(基地のある場所で)クラスでやりたいことがあるんじゃないの」次々に意見が出されていきます。いくつかの発言が続く中で、「自分たちが作るのも楽しかったから、それもできたらいいんじゃないかな」とRさんが発言します。もしも1年生が基地を楽しむなら作ることも楽しまないと本当の楽しさではないのではないかというのです。Rさんの発言に合わせて幾人かの頷く声もきかれました。夏の暑い日、汗をかきながら釘を打ち、土を掘り、木材を運んだ日々。「もっと大きくしたいな」、「階段を付けようよ」、「ベンチも欲しいな」、「先生、ぼくたちで設計図をかいたよ」自分たちの思いが形となっていくことは、大変だけれどそれ以上に楽しいことでした。そんな思いを知っているからこそその発言です。基地の分解が決まりました。

分解前、最後の日となったこの日。Kさんの提案で1年2組修了式を基地で行うことになりました。代表者が基地の思い出を発表し、一人一人修了証を受け取りました。この日のAさんの学習カードには、「『2年生になっても、基地のことを忘れないようにしよう』と自分の気持ちでは思っています」と綴られていました。基地でのたくさんの思い出を胸に、新たな一歩を踏み出そうとしている子どもたちに、たくましさを感じずにはられません。



おい「みんなの基地」、たくさんの思い出をありがとう！！